

2021 年度実施概要

学校名

与論町立 与論中学校

採択活動名

ユンヌの海から世界へ

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 与論の海を知る	1 年	総合的な学習の時間
2. 与論の産業・観光・伝統芸能・生活文化・歴史を知る	2 年	総合的な学習の時間
3. 与論の現状を知り、未来を創る	3 年	総合的な学習の時間

取り組みの概要

1 はじめに

海洋教育推進の1年目では、海洋教育の視点から教育課程を再構築する作業を行った。2年目では他校種や地域関係機関との連携を深め、地域サポーターなどの協力を得て、実質的な運営に取り組んだ。3年目にあたる本年は、昨年度の反省を踏まえ、より持続可能で効果的な海洋教育の確立を目指すとともに、系統立てた教育課程の編成に取り組んだ。

2 海洋教育の実際(例)

(1) 集団体験学習

① 海洋ゴミに関する講話・大金久海岸での清掃作業

1年生の集団体験学習において、海洋ゴミと海謝美(海岸清掃ボランティアグループ)の活動について、海謝美の代表に講話後、大金久海岸にて清掃作業を実施した。講話では、海洋ゴミの特徴や、海洋ゴミが引き起こす問題についての説明があり、生徒も新しい気づきにであったり、自分事として捉えようとしたりする姿が見られた。また、海岸清掃では、どこから流れてきているのかを調べたり、大きなゴミだけでなくマイクロプラスチックなどの小さなゴミも拾ったりする生徒もいるなど、海洋ゴミに対して責任ある行動を起こそうとする姿勢が見られた。



② サンゴ増殖・経過観察

町漁業協同組合の方に協力していただき、与論町を囲む海の現状や漁協の取組についての講話を聞いたり、サンゴの増殖観察を行ったりした。生徒は、サンゴの特徴や役割などを理解し、サンゴを守る活動の大切さを感じていた。また、サンゴ増殖の失敗や成功例を聞くことで、きれいな海を守ることの困難さを感じたり、今後自分たちにできることはないかと考えたりするきっかけとなった。

(2) 郷土学習講話

2年生を対象に、17名の地域サポーターが、郷土の魅力や課題を再発見するために、それぞれの分野(生活・文化・歴史・環境・産業など)のプレゼンを実施した。生徒は、その中から特に興味をもった分野を二つに絞り、さらに詳しい話を聞いたり、質問したりすることで、郷土に関する理解を深めることができた。さらに、与論が抱えている課題について自分なりの課題をもち、その解決のために何ができるかということを考え始める機会となった。



(3) 着衣水泳

全学年を対象に実施している。地域サポーターである B&G 海洋センターの職員に講師として来校していただき、本校プールで授業を行った。安全に水辺で活動するための基礎的な知識、対処法を身に付け、自分の命を守る方法、また周りの人たちと助け合う方法を知り、体験を通して習得する機会としている。

3 おわりに

今年度は、昨年度の反省を踏まえ、より充実して効果的な地域人材の活用を推進することができ、次年度以降も持続可能な海洋教育の基盤をつくることができた。さらに、海洋教育で育みたい資質・能力を整理し、教育課程の編成にも取り組むことができた。次年度以降は、特例校として、海洋教育を通して、島の未来を担った生徒の育成に取り組んでいきたい。

